

さようなら原発10万人集会

炎暑の中17万人が参加



あげよう、反原発の声を！

横浜市神奈川区 宮澤 軌昭

原発事故により、故郷を追われた16万人の内、7千人は流浪の民として、20年は許されないと、経つても帰郷出来ないという。先人の汗と涙によって開かれてきた豊穡の地は、一転不毛の大地と化し、半永久的に負の遺産として後世に残る。被曝の恐怖は生涯に亘って更には世代を超えて人々を苦しめる。

冷静に思考するならば、活断層と地震多発地帯の上に位置する日本は本来、原発など持てる国ではなかったのではないのか。電、政、財、学、報からなる原子力ムラの任人達がでっち上げた安全神話を、私を含めた多くの国民は信じ込まされてきた。私達が使用してきた、電力の一部は、結果として、福島県民の想像を超える犠牲の上に供給されて

参加者が寄せられたので掲げた。酷暑をものともせず、反原発の声を高らかにあげられた志の高さに頭が下がる。そして、わが協会

催者の声は十分に届かなかったが、ストップ原発の熱気は十分に伝わってきた。集会の後、90歳の尼僧姿の瀬戸内寂聴さんが車いす

3・11の東日本大震災から一年余り。忘れてはならないこと、伝えなければならぬこと、今回は、ご実家が福島県相馬市の田中敏章先生にご寄稿いただいた。



我が古里、相馬

横須賀市・平川歯科医院 田中 敏章

もどかし、やきもきしながら、毎日、映像やニュースを見て過ごすしかなくなつた。3週間が過ぎ土曜日の診療を終え、ようやく故郷の相馬の地へと向かうことができた。4月2日のことである。ようやく辿り着いた相馬の地、ニュース映像では何

市民公開原発学習会開催 福島原発事故の報道されない現実

反核医師の会



綿井健陽氏

7月14日、フリージャーナリストの綿井健陽氏を講師に原発学習会「メディアが伝えない Fukushima」が開催された。主催・核戦争防止神奈川県医師の会、後援・保険医協会。参加は40名

講演は福島原発事故直後の周辺地域の取材映像の他、原発作業員へのインタビュー映像などが流された。氏が解説を交えながら、約2時間行われた。原発事故直後の地元はどのような状況であったか。放射能の影響を「直ちに健康に影響はない」と政府が語る中、個々、極めて



伝統行事・相馬野馬追

神奈川に来て23年になる。怠惰な性根に喝を入れながら、出来る限り様々な形で反対運動に参加したい。この町で暮らした。4年ほど歯科医として働いていた町でもある。地震発生から4分後には7・3m以上の第一波が襲い、市内の被害は459名の死亡・行方不明者、全壊・半壊棟数は1千400という惨状であった。かつての市内歯科医仲間では、1人の先生が隣町に住む母親を救い出しに行き、津波にのまれて亡くなった。あの震災以降、郷愁の思いが募るばかりである。



常磐線。線路には草が生い茂る。父の筈に付けられていた放射性物質測定結果の紙



健康被害を懸念して自主的に相馬から避難し、家族が離れ離れに暮らす家庭もある。避難区域から避難して相馬で暮らす人々も多くいるが、亡くなった人の遺骨を先祖の墓に納めることができないと

見捨てられた地。あれから1年5カ月が経つが、復興は遅々として進まない。ともかくにも原発事故、放射能汚染が復興の妨げになっている。東京へと向かう国道6号線は福

島第一原発の存在によって分断され、遠く迂回するのを余儀なくされ、鉄道の常磐線もまたしかりである。大動脈を断たれ、まさに陸の孤島と化している。常磐線は何十年も全面開通しないに違いない。福島沿岸部は国に見捨てられている。首都圏では以前と変わら